

第71回全国高等学校PTA連合会大会石川大会報告

県高P連副会長(厚狭高等学校副会長) 田中 幸夫



開会式

第71回全国高等学校PTA連合会大会石川大会が、令和4年8月25日、26日の二日間にわたり、石川県金沢市のいしかわ総合スポーツセンターをメイン会場として開催され、山口県からは37名が参加してききました。近年、コロナ禍の影響を受け、全国のPTA会員が一堂に会した開催は3年ぶりで、今回は、現地参加に加え、Web配信も併用され、より多くの方が参加できる開催要領で行われました。従来の様に1万人近くが集うことはまだ無理のようですが、それでも会場には、約5000人強が集い、オンライン参加校も1000校を超える参加があったそうです。

このような大会は各県持ち回りで開催され、近年では、佐賀、京都、島根、石川と続き、来年は、宮城で開催されます。開催地となる県では、早くから準備に取り掛かり、県内の全公立高校のPTAが一丸となって、催されます。このような機会を通して、より強固な結びつき、連携、交流が実現していることが現地のスタッフの方々とお会いすると実感できます。参加する私たちも、このような場を通して、各校のPTA役員、担当の先生方と交流を深めることが出来、子どもたちの学びの場をより良い環境にしていけることが出来るのではないのでしょうか。

さて、今回の石川大会会場の金沢市は、移動に半日を要する為、前日移動で参加しました。新幹線で大阪まで行きサンダーバートに乗り換えて金沢まで。琵琶湖の側を通る際には、青い空と琵琶湖の風景を眺めることが出来ました。しかし、久々の電車移動での6時間も座り続けは、お尻が痛かったです。金沢到着後、夕食までの空き時間を利用して、同行した皆さんと日本を代表する三大庭園の一つ、兼六園を観光。私はその後、自由時間を利用して、おとなりの金沢城公園へ足を運んでみ



兼六園

ました。一部を除き、入園無料！遠くから眺めてよし、近づいて迫力もよし。外観の素晴らしさに必ず感動すること間違いなしと言っても過言ではありませんでした。夜は、他校の方々とホテル近隣の飲食店へ行き、地産の食材を使った名物料理に舌鼓を打ちながら、公私様々な会話を楽しむことが出来ました。

一夜明けて、本題の石川大会へ参加。と、会場へ向かう前に。金沢の台所「近江市場」の雰囲気と「ひがし茶屋街」で古風なたたずまいを散策。そこで金箔プリンを堪能。そして中田屋の「きんつば」を手に心置きなく、いざ、大会会場へ向かいました。

会場は、街中かとおもいきや、田園広がる平野の中にあるアリーナでした。更に、外は大雨になり、さすが「弁当忘れても傘忘れるな」と言われる金沢。完全隔離の中、開会行事が始まりました。音響が悪いのか、座席位置が悪いのか、式典の内容がうまく聞き取れず、内容をメモ出来ませんでした。国歌

独唱では、生の歌声が、会場に響き渡り心が洗われるようで、大変感銘を受けました。独唱された金沢辰巳丘高等学校の坂真成(さかまさなり)さんは、高校入学後、本格的な声楽のレッスンを受けられ、合唱部員として、様々な賞を受賞されていたそうです。兎に角、素晴らしかった。

大会のテーマは、「輝く未来への礎」親から始める新時代の教育」。初日は、4つの分科会に分かれ、私は、第1分科会に参加しました。テーマは、「新時代の家庭教育・今伸ばすべき本場に必要な力」と題し、慶應義塾大学総合政策部の中室牧子氏と花まる学習会代表の高濱正伸氏の講演と質疑応答がありました。中室氏は、数値的な根拠を基に、高濱氏は体験を基に講和されています。高濱氏は「これまた音声聞き取れず残念でした。二日目のスタートは、石川県立小松明峰高等学校吹奏楽部の演奏で始まりました。アリーナいっぱい広がる生演奏は、豪快なもので、「演奏は生に限る」と言いながら、みなさん満足の様子でした。

記念講演は、ファミリーマート顧問の澤田貴司氏。「やりたいことをやる」がテーマでした。学生時代成績は振るわなかったが、持ち味の運動能力を生かし、ラグビー部のキャプテンを務めるなど、自発的にやりたいと思ったことを貫き通し、社会に出てからも、やりたいことを求めて、いくつか転職されています。その過程で、山口県宇部市を創業の地とし世界へ進出している、

ファーストリテイリングの柳井氏へ会うために宇部市を訪れるという、超身近に感じる話題もありました。更にダイエー買収にチャレンジされたり、サークルKサンクスとファミリーマート統合を指揮され、ブランド転換を成し遂げるなど、成功、失敗を繰り返しつつ、やりたいと感じたことを貫き通されています。心を打たれたのは、このように、第一線を指揮する上の立場にいながらも、現場とのコミュニケーションを重視し、常に現場の働き手と、エンドユーザを視野において改革を進められていることです。なかなかできることではありません。

また、「挨拶は自分から。目上の方を敬い、感謝する。」お父様はこの躰に大変厳しい方だったそうです。お父様を亡くされたとき、この躰は、何事にも感謝することを忘れず、利己ではなく、利他を大切にすることにつながり、人生で一番大事なことだと悟られたそうです。私たちも子供のころからよく言われていた様に思いますが、この教えを守ることもなかなか難しいことです。すぐに利己に走り、感謝することを忘れがちになります。澤田氏の講演は、ファミリーマートをアピールするアイズブレイクの話題をはさみながら、あつという間の1時間30分でした。話を聞きながら、自分を振り返り、私も、社会に出て、工場の技術職でしたが、先輩からは、「現場100回！」とよく言われたな。とか、「やりたいことをやる」とは、私の好きな言葉で、「物の好きこ

上手なれ」にもつながるなど感じながら聞いていました。やりたいことを好きなだけやり通すには、楽しいことばかりではなく、それなりの努力も必要です。また、成し遂げるためには、一人ではなく、周りとの協調と理解も必要です。

これからの社会を担う子どもたちの時代は、目まぐるしい環境変化の中で、先人が成功した事例をまねるだけでは、通用しなくなりそうです。自分がやりたいことを貫く。言い換えると、人とは違った個人の価値観を生かし、新たな価値を生み出す力をつけておく必要があると思います。講師の澤田氏は、それをやったのけた一人ではないかと思えます。子どもたち個々の価値観が生きるよう、やりたいことがやれる教育環境が必要になっていくと改めて感じた講演でした。



会場

令和4年度 小中高PTA・校長会連絡協議会開催

この協議会は小・中・高の連携協力を図る趣旨から企画され、今年度は高P連が主管担当し、11月22日(火)に開催されました。

本年度は、協議会に先立って、山口松風館高校を視察研修し、「多様な学びのニーズに応える柔軟な教育システムをもつ新たなタイプの高校」をコンセプトとして誕生した、県内初の3部制の定時制課程と通信制課程を併せもつ高校の学習環境を学びました。参加者からは、「一人ひとりの生徒にとって、安心できる環境づくりが学びにとって大切であることを改めて実感した」等の感想が聞かれました。その後の協議会では「外部部活動指導員の配置・活用状況」「コロナ禍におけるPTA活動の現状と課題」「地域連携教育の現状と課題」について、小中高の各校種における取組状況の違い等に関して、情報交換や意見交換を行いました。

今後もこの協議会が、小・中学校PTAおよび高校PTAの縦の連携強化を図り、学校・家庭・地域の連携、協働の取組をさらに充実・活性化させていくことにつながる機会となるよう取り組んでまいりたいと思います。



各地区で連絡協議会を 開催しました

- 1 岩国地区(書面開催)
主管校 高森みどり中学校・高森高等学校
- 2 柳井地区(7月22日)
主管校 田布施農工高等学校
- 3 周南地区(8月10日)
主管校 光高等学校、下松工業高等学校
- 4 山防地区(9月10日)
主管校 山口農業高等学校
- 5 長南地区(8月5日)
主管校 宇部中央高等学校、小野田工業高等学校
- 6 下関地区(8月5日)
主管校 下関南高等学校、下関工科高等学校
- 7 長北地区(7月14日)
主管校 大津緑洋高等学校(日置校舎)